

行政評価シート(事後評価)

コード (110) 12-3-1	事務事業名 団塊世代向け事業	所管部課 教育部公民館(旧生涯学習部保谷公民館)
---------------------	-------------------	-----------------------------

事務事業の概要	事務事業の目的		根拠法令等	
	本年度より本格化する団塊世代の大量退職者に伴う第二の人生について、地域への参加や理解をしやすい環境作りをするため、各公民館がそれぞれに即した事業を計画し参加を促し、公民館を拠点とした地域・仲間作りに寄与し、新たな地域社会の構築を目指す。		<input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 要綱・要領	
	事業内容・実施方法等 / 補助の概要: 補助団体の概要(団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等)、補助金の概要(国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額)等			
	地域デビューを目指す市民を対象に、各公民館がそれぞれ講座を実施する。 【対象講座名】 ・西東京市の歴史を歩く・健康講座・仏像鑑賞入門・ワイン入門・はじめての尺八講座 ・熟年夫婦の新しい関係・働く世代の年金講座・団塊ユメ追い塾・田無カレッジ(以上、平成18年度) ※平成19年度についても同件数程度を予定			
事業開始時期	18	年度	実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ()

事業費データ	項目	単位	16年度	17年度	18年度	19年度
	事業費(A)					1,145
財源	国庫支出金・都支出金	千円				
	地方債					
	内 其他 ()					
財源	一般財源		0	0	1,145	1,200
所要人員(B)	人				0.47	0.50
人件費(C)=平均給与×(B)	千円		0	0	3,836	4,081
臨時職員等賃金(C')	千円				12	22
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円		0	0	4,993	5,303
単位当たりコスト						
(E)=(D) / (講座の実施日数)	千円		#DIV/0!	#DIV/0!	86.1	88.4

評価指標の設定	活動等指標		単位	16年度	17年度	18年度	19年度
	講座の種類	実績値	回			10	11
講座の実施日数	実績値	日			58	60	
(指標の説明・数値変化の理由 など) 予定に近い実績とはなったが、参加者の意見を取り入れ次年度以降は内容の充実した事業の取り組みをしていく。							
評価指標の設定	成果指標		単位	16年度	17年度	18年度	19年度
	一 参加者数	目標値	人			236	
実績値		人			206		
二 講座実施後グループ化・既存団体への加入・地域社会への参	目標値	団体			1	4	
	実績値	団体			3		
(指標の説明・数値変化の理由 など) 講座によっては目標値に満たないものもあるが、即定数を満たし断る講座も多い。開催時間や曜日、回数を含めた見直しをしながら対応していく。							

事業環境等	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	参加者からは、身近な問題として講座に参加し、公民館と地域を知ることによる仲間づくりへの期待も大きい。	
	都内26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	<input type="checkbox"/> 上 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 下	各市の運営形態や地域性によって比較はできないが、団塊世代の公民館への誘導は積極的に取り組んでいる。
	代替・類似サービスの有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	大学の公開講座、企業の派遣サービスで類似の事業を行うところも多々ある。手段は同一でも、その目的が「地域づくり」である点は異なる部分も多い。

コード (110) 12-3-1	事務事業名 団塊世代向け事業	所管部課 教育部公民館(旧生涯学習部保谷公民館)
---------------------	-------------------	-----------------------------

【一次評価】

検証項目	ランク		一次評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
事業の優先度(緊急性)	2		<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>当初、団塊世代またはその直前世代の市民を対象にした事業を展開したが、退職後に再就職する方も多く、思ったより地域デビューする人は多くなかったようである。結果として、団塊世代を対象としながら高齢者が多く応募してくる現状が見られた。</p> <p>幅の狭い年代層を、様々な事業者が対象にすることへの困難さは、5年前の学校週5日対応事業のときに似た状況である。団塊世代のみを対象とする事業の必要性よりも、公民館が伝統的に続けてきた、事業実施後のサークル活動への誘導、既存サークルの情報提供などを行うことで、当該世代への求めに応じた支援につながるものと思う。</p> <p>なお、新たな利用層(ここに団塊世代を含む)を対象に、平日夜間や休日などに実施する講座の継続は今後も必要である。</p>
事業の必要性	3			
事業主体の妥当性	2			
直接のサービスの相手方	2			
事業内容等の適切さ	2			
受益者負担の適切さ	2			
市民ニーズの把握	1			

【二次評価】

検証項目	ランク		二次評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
事業の優先度(緊急性)	1		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>結果として市民ニーズや社会実態と合致していない事業と考えられるので、「団塊世代向け」と対象者を限定した事業は廃止することが適切と考える。</p> <p>今後は、地域づくり・仲間づくりを進めるための事業を中心として、今まで、いわゆる初期高齢者(現在では「団塊の世代」)、現役サラリーマンなど公民館を利用してこなかった市民が広く利用できるような内容、実施方法を検討して事業を推進されたい。</p>
事業の必要性	1			
事業主体の妥当性	1			
直接のサービスの相手方	1			
事業内容等の適切さ	1			
受益者負担の適切さ	1			
市民ニーズの把握	1			

【行革本部評価】

行革本部評価	判断理由及び事業を行う上での課題や、今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>平成18年度から開始した事業であるが、事業担当課で認識しているとおり、参加者数が少なく事業の見直しが必要である。</p> <p>今後は、団塊の世代をターゲットとしつつも現役サラリーマンなど広く対象を捉えて実施する等の工夫が求められる。</p>